

IV-407

京阪神在住の大学生のリゾート・レクリエーション行動に関する一分析

立命館大学理工学部 正 員 春名 攻
愛知県 正 員 ○大島 良彦
立命館大学大学院 学生員 蜂谷 智樹

1. はじめに

近年、国民の価値観の変化は経済的側面から生活の質的側面へと移行しつつあるといわれているが、その中でも余暇活動を充実させるためのリゾート空間の整備が重要なテーマとなってきた。本研究では、京阪神地域の大学に通学している学生を対象とし、それら学生のリゾート地選択行動に影響を与える要因を抽出することとした。さらに、学生層を対象としたリゾート地選択行動のメカニズムの解明をめざすることとした。

2. リゾート地選択行動の仮説と調査の概要

(1) リゾート地選択行動の仮説

リゾート地選択行動メカニズムは、まずあらゆる欲求が集合し、かつそれらが複雑にからみあってリゾート欲求が生まれた結果としてリゾート地の選択行動が行われていくという2段階の行動プロセスを仮定した。さらに、リゾート欲求が顕在化する際に影響を与えられられる要因を外的要因、内的要因の2要因に分類して分析をすすめることとし、またリゾート地選択の際に影響を与えられられる要因を個人的要因、情報要因、時期的要因の3要因に分類した。(これらのリゾート地選択行動メカニズムの仮説は図-1に示すとおりである。)

(2) アンケート調査の概要

本研究では、「都市における余暇(リゾート)施設整備に関するアンケート」を京阪神を通学圏としている学生を対象として行った。調査期間は平成5年12月から平成6年1月で、男女合計220部を配布し、回収数は158部、(回収率71.8%)を回収した。

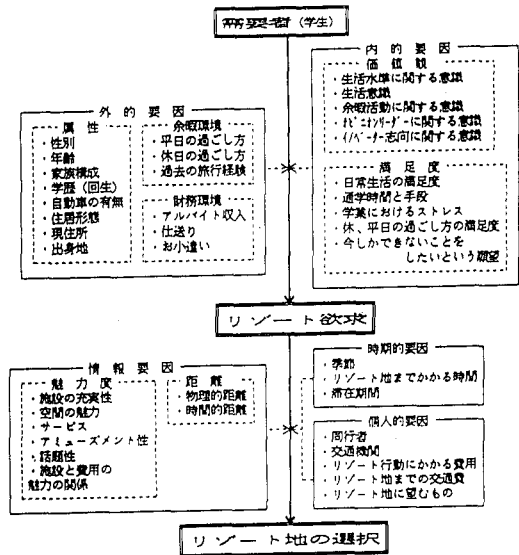


図-1 リゾート地選択行動メカニズムの仮説

3. リゾート地選択行動の影響要因に関する分析

アンケート調査結果にもとづいて以下のような実証的分析を行った。ここではまず単純集計結果よりリゾート欲求の顕在化に影響を与える要因や、リゾート地選択に影響を与える要因を抽出した。次に上の考察結果にもとづき、林の数量化理論第2類を適用した分析を行い、リゾート地選択行動影響要因を明確にした。そして、これらにもとづいてリゾート地選択行動メカニズムに関する検討を行った。

(1) リゾート地選択行動の影響要因の考察

ここでは、アンケート調査で得られた調査結果にもとづいて、各項目についての単純集計ならびにクロス集計分析を行った。そして、この考察結果にもとづいて、リゾート地選択行動に

影響を及ぼすと考えられる要因を抽出した。

（リゾート地選択行動の影響要因は表-1に示すようになった。）

表-1 影響要因

- ・性別
- ・お小遣い
- ・日常生活の満足度
- ・生活意識
- ・同行者
- ・平日の過ごし方の満足度
- ・過去の旅行経験（3泊以内）
- ・過去の旅行経験（4泊以上）
- ・休日の過ごし方の満足度
- ・リゾート行動にかかる費用
- ・費用と施設の魅力の関係
- ・リゾート地までかかる時間（自動車）
- ・リゾート地までかかる時間（電車・バス）
- ・リゾート地までの交通費
- ・リゾート地に望むもの
- ・施設の充実性
- ・空間の魅力
- ・アメニティメント性
- ・話題性
- ・サービス面

（2）数量化2類を適用したリゾート地選択行動影響要因に関する考察

（1）で抽出したリゾート地選択行動要因を用いて、林の数量化理論第2類による

高次分析を行った。この分析により、リゾート地選択行動に影響を与える主要な要因群に関する検討を行った。ここではまず、外的基準を性別とし、1泊の場合と3泊の場合で前述したリゾート地選択行動要因を説明変数として分析を加えることとした。この分析結果をみると1泊滞在におけるリゾート地の選択に影響を与える要因は、範囲の大きさから考えると第1位が「サービス面」であり、以下順に「費用と施設の魅力の関係」、「リゾート地に望むもの」、「同行者」の順となった。次に3泊滞在においては、第1位が「サービス面」であり、以下順に「日常生活の満足度」、「空間の魅力」、「リゾート地に望むもの」の順となった。なお、ここでの分析結果をみると、滞在期間に関係なく、男性は金銭面の配慮を、女性はトイレや食堂などの清潔さなどの衛生面の配慮を重要視していることが理解できた。

さらに、1泊滞在と3泊滞在との比較において顕著な差が現れたのは、「男性のリゾート地に望むもの」であった。すなわち、1泊滞在中でリゾート地に望むものは、「くつろぐ」、「リフレッシュする」など精神的に満足することであり、3泊滞在中では、精神的に満足することだけでなく、「体力づくり」、「運動不足の解消」などの体を動かすことであると理解できた。つまり滞在期間が長くなれば体を動かすことを目

的としたリゾート地が望まれ、滞在期間が短くなれば精神的に満足することを目的としたリゾート地が望まれることがわかった。

以上の考察をもとにして、学生のリゾート地選択行動メカニズムを提案するとともに、性別による、リゾート地選択行動のキーワードを提案していくこととした。（このリゾート地選択行動メカニズムを図-2に、リゾート地選択行動のキーワードを表-2に示した。）

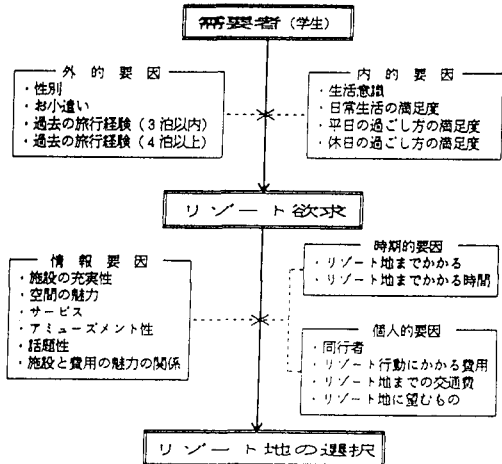


図-2 リゾート地選択行動メカニズム

4. おわりに
以上の分析によってリゾート地を実際に選択する場合

表-2 リゾート地選択行動におけるキーワード

男 性	女 性
儉約志向	美しさ志向
・金銭面への配慮	・衛生面への配慮
	・自然、緑の豊富さ

合には性別によって違いが表れることが明らかになった。男性では滞在期間に関係なく、リゾート行動にかかる費用やその際の交通費などのような金銭面の配慮を重要視するような「儉約志向」、女性ではトイレや食堂の清潔さなどのような衛生面の配慮や、リゾート地に自然や緑を求めるというように「美しさ志向」が強いということもわかった。リゾート開発では環境保全との二律相反する問題など多面的な課題を多くかかえており、総合的な計画論としてリゾート開発を論じるためには、さらなる多角的な検討が必要であると考えられた。